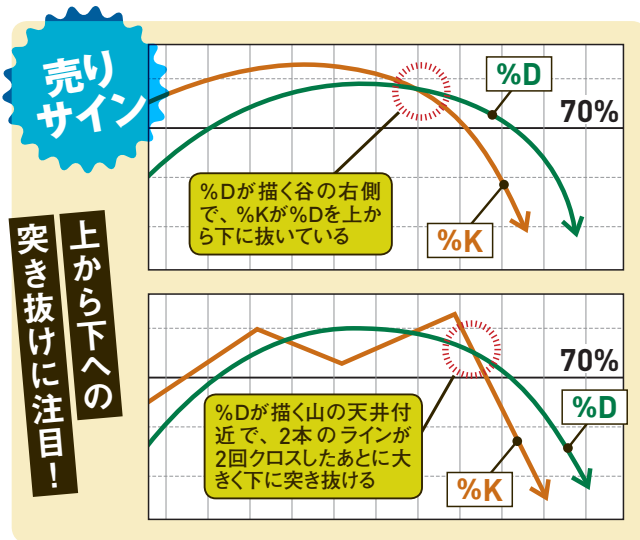
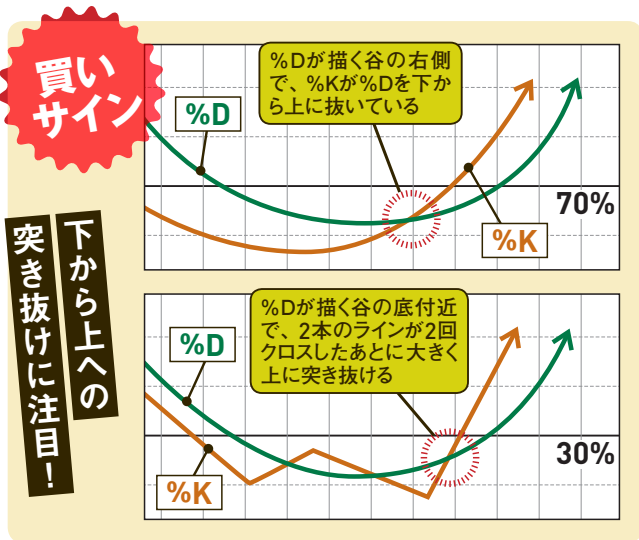


ストキャスティクスの「買いサイン」と「売りサイン」

サインの探し方

頻繁に出るサインを見極めよう %Kが%Dを下から上に抜いたときが「ゴールデンクロス」で、買いサイン。%Kが%Dを上から下に抜いたときが「デッドクロス」で、売りサイン。これが基本的な使い方となる。しかし、ダマシも多いので、下に掲載したそれぞれのサインを参考に、ダマシを見分けよう。



用語 for ビギナーズ

SHOW %D

%Dの移動平均線を表す。スロー・ストキャスティクスという。ストキャスティクスに比べ、描画される線がなだらかなるのが特徴。用い方はストキャスティクスと同じ。

LEVEL 4-9
ストキャスティクス編のまとめ

- 相場の過熱感を判断する指標
- 0%に近いほど「売られすぎ」
- 100%に近いほど「買われすぎ」
- ゴールデンクロスとデッドクロスに注目

または%Dが30%以下になったときで、これが「買いサイン」である。また、%Kが%Dを下から上に抜いたとき(ゴールデンクロス)は買いサイン、上から下に抜いたとき(デッドクロス)は売りサインという使い方もある。

そのほか、%Dが描く山や谷の右側にサインが出たときは信頼性が高く、%Dが描く山の天井付近で2度クロスしたあとに大きく下に突き抜けた場合も強い売りサインとなる。

買いサインの場合も同様の形をとれば、強力なサインとなるので覚えておこう。

また、%Dが売られすぎ、買われすぎの水準にあるときにダイバージェンス(83ページ参照)が発生すると、相場の反転を示唆するサインとなるので覚えておきたい。

なお、ストキャスティクスはサイン通りにロートク足が動かないダマシも多いのが弱点だ。移動平均線やMACDなどのほかのテクニカル指標と組み合わせると安全度がアップするだろう。